

令和7年度が始まりました。実践研究部会では、今年度も「中学校理科に携わる会員の授業力、力量の向上」をミッションとして活動して参ります。活動の大きな柱は「秋に行われる授業公開に向けた検討」と「日々の授業作りに役立つアイデア研修」です。

実践研究部会の活動の様子は、この「みんなで創る理科授業」にて紹介していきます。興味を持たれた方はメンバーまでご連絡ください。

それでは、6月18日（水）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。

授業作りについて

港北中学校の佐藤友哉先生から、「生徒一人一人に個別の学習到達目標を設定させることで、自らの取り組みを調整することにつながり、生徒の学びのモチベーション向上が期待できるのでは」という考えのもと、理科の授業を進めながら「生徒が主体的に学ぶ環境」を設計していきたいとありました。ルーブリックのA基準を生徒一人一人に設定させてみることで、生徒の文章を評価する際、基準がぶれないようにAIを活用することなど、今年度試してみたい取り組みについて参加者で様々な意見を交換しました。

秋の授業公開について

秋の授業公開の授業者である日比野中学校の佐藤智久先生より、生徒の実態、これまで取り組んできた授業（実践）で大切にしてきたこと、今年度やってみよう（力を入れてみよう）と考えていることなどについて説明してもらいました。

佐藤先生は、理科の授業で「自ら問いを立て、探究することができる生徒」を育てたいと実践に取り組んでいます。そのために、理科の授業で身に付けたい力を設定して、単元学習カードの授業ごとの振り返りで、目標に照らして今回の学習で何ができたか、目標を達成するために何を頑張ったか、身に付けたい力はどう意識できたかを記入するようにしています。また、授業での疑問をもとに探究可能な問いを設定し、解決していく授業を目指す実践を行ってみたいとありました。

授業の構想について参加者が共有したところで、具体的な対象生徒や単元などを踏まえ、授業の具体化に向けた話し合いを行いました。佐藤先生との質疑応答や、単元指導計画について議論する中で、「授業の中で探究につながる疑問をもたせるには」「探究可能な問いを立てるには」などが今後の課題、授業作りにおける留意すべき視点として挙げられました。今後、授業公開に向けた検討が本格化しますが、参加者全員が授業作りへの理解を深めることができる今日的で提案性のある実践です。ぜひご参加ください。

名理会 秋の授業公開

令和7年10月21日(火)午後 場所：日比野中学校南校舎 授業者：佐藤智久先生
実践単元：中2「生命 生物の体のつくりとはたらき みんなで探Qクラブ」